

平成25年 第18回帯広市教育委員会会議録

1. 平成25年10月29日火曜日 11時 ～ 12時30分
帯広市教育委員会会議を帯広市役所 教育委員会室に招集する。

2. 本日の出席委員

教育委員長	田 中 厚 一
教育委員	市之川 敦 子
教育委員	門 屋 充 郎
教育委員	伊 藤 成 昭
教 育 長	八 鍬 祐 子

3. 本日の議事日程

- | | |
|-------|---|
| 日程第 1 | 会議録署名委員の指名について |
| 日程第 2 | 議案第 47 号 平成 26 年度帯広市立高等学校の入学者募集について |
| 日程第 3 | 報告第 14 号 平成 25 年度第 53 回帯広市児童生徒読書感想文コンクール審査結果について |
| 日程第 4 | その他 (1) 帯広市議会 9 月定例会の報告について |
| | その他 (2) 平成 25 年度教育懇談会の開催について |
| | その他 (3) 今後の事業予定について |
| | その他 (4) 寄附受納について |
| | その他 |
| 日程第 5 | 議案第 48 号 平成 25 年度帯広市市民文芸賞及び市民文芸準賞の決定について
【非公開】 |
| 日程第 6 | その他 (5) 平成 25 年度全国学力・学習状況調査について【非公開】 |

田中委員長

これから、平成25年第18回帯広市教育委員会会議を開会いたします。

出席委員は全員であります。

会議は成立しております。

ここで諸般の報告をいたします。

(服部課長 報告)

日程第1、会議録署名委員の指名を行います。

会議録署名委員は、門屋委員及び伊藤委員を指名いたします。

日程第2、議案第47号、平成26年度帯広市立高等学校の入学
者募集についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

須貝 部長

議案第47号、平成26年度帯広市立高等学校の入学者募集につ
きましてご説明申し上げます。議案書は1ページでございます。本
案は、平成26年度帯広市立南商業高等学校の入学者選抜につ
きまして、平成25年9月30日付で北海道教育委員会から通知があり
ました道立高等学校の入学者選抜実施要項に準じて、平成26年度
帯広市立南商業高等学校入学者の募集内容を定め、告示しようとする
ものであります。よろしくご審議賜りますようお願い申し上げます。

田中委員長

これから質疑に入ります。

田中委員長

募集人員や提出期間などは例年どおりと考えてよろしいのでしょ
うか。

稗田事務長

募集人員は200名、うち100名は通常的一般、100名推薦、
合わせて200名、例年と同じ募集をしてございます。

田中委員長

願書の提出期間も同じでよろしいですか。

稗田事務長

募集期間につきましては、道立高等学校の日程が決まってお
りますので、それに準じた形で市も同じ時期で行っております。

田中委員長

分かりました。

田中委員長

他になければ、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第47号、平成26年度帯広市立高等学校の入学者募集につ
いては、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員

異議なし。

田中委員長

ご異議なしと認め、議案第47号は決定されました。

日程第3、報告第14号、平成25年度53回帯広児童生徒読書
感想文コンクール審査結果についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

大久保部長

報告第14号、平成25年度第53回帯広市児童生徒読書感想文
コンクール審査結果についてご説明いたします。議案書は5ペ
ージでございます。本件は平成25年度第53回帯広市児童生徒読書感

想文コンクール応募作品の審査結果をご報告するものでございます。このコンクールは、市内の学校図書館と市図書館の相互発展のため、帯広市学校公共図書館研究会を昭和34年に設立し、昭和35年から毎年実施しているものでございます。今回のコンクールは、小学生80人、中学生45人の合計125人から応募がございました。研究会で審査した結果、最優秀4人のほか、全体で87人が入選いたしました。なお、入選者名簿は本日お手元に配付させていただいておりますのでご参照いただきたいと思います。また、表彰式につきましては、11月23日午後2時から帯広市図書館で開催する予定でございます。以上でございます。

田中委員長
伊藤 委員

これから質疑に入ります。

まず、応募してきたお子さんの審査はどのような部門でなされているのかということと、各学校での読書指導、ご家庭での親子の読書熱が高くなってきているのではないかと思います。審査に係わった中で今年の評価についてお聞きしたいと思います。

本江 館長

募集につきましては、第Ⅰ類と第Ⅱ類に分けておまして、第Ⅰ類は自由図書、第Ⅱ類は課題図書です。年齢によります区分は、小学校低学年の部は1、2年生対象、中学年の部は3、4年生対象、高学年の部は5、6年生対象、中学校の部の4つに分かれております。応募状況については、名簿の一番後ろに経年別の数値を載せてございます。全体の応募数は昨年の139名に比べ125名と14名減っておりますが、入選者数は87名と非常に高い数値になっております。朝読書などのいろいろな働きかけにより、お子さんの読む力、書く力が上がっているように思われます。直接的な因果関係は正確にはつかめませんが、非常に質の高い作品が増えたという報告をいただいております。以上です。

田中委員長
本江 館長

あと選考委員についても、どういう組織なのか教えてください。

主催者は帯広市公共図書館研究会で、小学校、中学校の教諭で組織されております。その主催者から委嘱された教員によって編成されており、小学校から15名、中学校から6名を委員に委嘱し、2回にわたり審査を行っております。

伊藤 委員
田中委員長

分かりました。

他になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

日程第4、その他に入ります。

その他(1)帯広市議会9月定例会の報告についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

野原調整監

9月25日から10月18日まで開催されました9月定例市議会における学校教育部に係わる質疑につきまして、概要をご報告させていただきます。議案書の7ページから10ページでございます。

今回、一般質問12名、決算特別委員会11名、学校教育関係は9名の議員からご質問がありました。質問者が多いことから、主だったものをご説明させていただきます。一般質問の中で、4人の議員から、特別支援教育に関すること、3人の議員から、学力に関すること、2人の議員から、いじめに関すること、そのほか、アレルギー関連、給食の地場産野菜の使用、地域連携等のご質問がありました。藤澤議員から、インターネット社会に対し、中高生の依存症への対応や教育現場でのネット教育について、中学校の教科での教育や家庭と連携した取り組みを進めており、今後においても、チェックリストの活用方法も含め、ネット依存に関する情報を学校や保護者に積極的に発信していく旨の答弁をしております。今野議員から、食物アレルギーの対応について、学校の全職員で情報を共有しているが、学校・家庭・調理場などの情報共有の仕組みを示すアレルギー対応マニュアルの策定を進めており、また、救急時における対応など、消防等関係部署と検討する旨の答弁をしております。植山議員から、障害者福祉制度改革に伴い、就学の仕組みやインクルーシブ教育について、就学先の決定については、これまでも保護者と協議を重ねる中で決定しているところだが、共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育の実現のため、特別支援教育の充実が必要であり、今後も個別の教育的ニーズに配慮しながら、学校教育全体の中で、最大限適切な学びの場の提供に努める旨の答弁をしております。中村議員から、学力向上の取り組みなどについて、H25年度の帯広市の全国学力学習調査の立ち位置と授業改善・教育活動の一層の充実、家庭や地域と連携して取り組むことなどを答弁しております。清水議員から、学力向上には心を育てることが大事であることなどについて、子どもたちが夢を持って学校生活を送ることは、学力の向上に欠かせない要素であり、学校教育指導の重点として計画的な指導をしていることや、家庭訪問は、重要な行事であり、家庭訪問に関する状況把握のための調査を実施する旨の答弁をしております。菊地議員から、学校給食の地場産野菜の使用と放射能測定について、地場産野菜の使用は天候に左右されるが、十勝産、管内産、道内産、本州産として使用していることや冬季間における地場産野菜の使用の工夫を地元生産者の協力を得るなどして行っていること、放射能の測定は、国の規準に基づいた考え方としており、測定結果のテレホンサービスの実施も開始したところであるが、今後も周知に努める旨の答弁をしております。大石議員から、国のいじめ防止基本法と市教委の対応について、いじめ・体罰は決して許されない行為であり、各校において未然防止・早期解決に向けた取り組みをしており、今後の国や道の動きを踏まえ、関係機関との連携の強化と様々な取り組みを充実させていく旨の答弁をしております。

大林議員から、地域・学校の連携強化について、学校支援地域本部事業では、地域の連帯感や絆を深めることを目的として実施しており、成果交流会などを通じ連携強化に努めること、幼保小中連携協議会では、子どもたちの学びや育ちをつなぐことを目的に、エリアファミリーを完成させ、それぞれ情報交流会等が実施されており、確かな連携が強化されるよう、関係機関等の情報共有、一層の連携に努めていく旨の答弁をしております。稲場千鶴議員から、発達障害・不登校への支援について、学校挙げての特別支援教育に取り組んでおり、理解を深める研修、教育相談体制の充実に努め、共生社会を意識した教育を推進すること、不登校の児童生徒に対して、家庭への働きかけ、家庭訪問相談員の効果的な配置の充実、家庭や地域社会と連携して、地域ぐるみの教育を行っていく旨の答弁をしております。杉野議員から、子どもの権利の尊重として、教育の目的、特別支援学級と交流学习、子どもの権利に関する学習などのご質問があり、教育は人格を持った一人の人間として尊重しつつ、人格の完成を目指すこと、交流学习は同じ社会に生きる人間として、互いに理解し、共に支えあって生きる基盤づくりとなること、公民的分野で基本的人権や子どもの権利条約の学習を行っており、発達段階に応じ、指導の充実に努める旨の答弁をしております。熊木議員から、学力向上の取り組みについて、各学校、全市をあげて、様々な取り組みを行っており、全国学力学習状況調査の自校での結果概要を各家庭と共有し、また、教師の指導力を高める研修や学校訪問などにおける指導・助言、各校ではスピード感のある授業改善や公開研究会など積極的に情報発信する学校も増えてきている旨の答弁をしております。高田議員から、障害者差別解消法とインクルーシブ教育について、就学先の決定にあたっては、保護者の意向を最大限尊重しながら、協議を重ね決定しており、インクルーシブ教育の実現には、地域社会全ての理解と協力が不可欠であり、今後も関係機関との連携を強化し、適切な学びの場の提供に努める旨の答弁をしております。次に決算審査特別委員会では、大塚議員から、子どもたちの議会見学の提案、教職員住宅の考え方、洋式トイレの整備の考え方について問われ、議会の見学機会を学校に周知することや教職員住宅は、学校施設の管理面などから一定程度必要であること、トイレの洋式化の目標を含めた整備の考え方の検討が必要である旨の答弁をしております。また、佐々木とし子議員から、学校修繕の状況、就学援助の今後の考え方などのご質問があり、今後においても、機動力を活かし、学校と協議する中で進める旨の答弁をしております。そのほか、主な質問では、山田議員から、教育委員会会議の傍聴促進の考え方、杉野議員から、統合プールの使用状況、検診項目、学校給食の管理マニュアルの対応について、中村議員から、

敦賀調整監

学校支援地域本部の状況、熊木議員から、教職員の研修、長期学習サポート、不登校の復帰状況、榎山議員から、市立図書館との連携、上野議員から、いじめについての体制、学校図書館における選書の考え方、大石議員から、教育費の不用額、デジタル教材についてなどのご質問があり、それぞれ答弁しております。学校教育部に関する報告は以上であります。

引き続き生涯学習部に係ります質疑についてご報告させていただきます。一般質問で1名、決算審査特別委員会では10名の議員からご質問がございました。まず、一般質問は議案書8ページになります。熊木議員から、帯広市の教育行政に関する質問の中で、部活動・少年団活動に対する支援について、スポーツ環境整備についてご質問がございました。平成24年度において、スポーツ少年団の全国・全道大会の派遣補助制度を拡充しましたが、中学校の部活動における派遣補助制度と同様、もしくは準じた形で更に充実というご要望がありました。この質問については、決算審査特別委員会でも熊木議員から続けてご質問・ご要望をいただいております。平成24年度の見直しに伴い、保護者からは大変好評という実態がございます。また、道内の他都市と比べて、本市の内容は充実している状況をご説明し、どのような事業もそうですけれども、今後も点検しながら進めていく旨ご説明しております。スポーツ環境整備については、東京オリンピック、パラリンピックの開催の決定を受け、合宿誘致をより積極的に取り組むことや新しい総合体育館の建設に関して、このたび実施した市民アンケートのほかにも、市民の意見を十分聞いていくようにというご意見をいただいたものでございます。次に9ページ、決算審査特別委員会における質問のうち、大塚議員からは、施設利用者や事業参加者の状況について、市民ギャラリーやとかちプラザを例にご質問がございました。市民ギャラリーは平成21年3月のオープン以来、年度を追って入場者数が減少している現状がございます。これまでも行っておりますが、平成25年度はPRを更に強化する取り組みにより、25年度は前年度と比較し、増加傾向にあることをご説明しております。佐々木とし子議員からは、帯広の森屋内スピードスケート場の利用状況についてご質問があり、開設以来年々利用者が伸びているものの、スケートの一般利用は見込みよりも下回っているということで、より一層の努力が必要とのご指摘を受けております。山田議員からは、百年記念館と図書館の資料収集の違いについてご質問がありました。百年記念館は博物館としての資料収集をし、調査研究を加え、展示や講座等を通じ、市民に周知を図っていること。更に図書館では帯広十勝に関する文学的な資料や出版物を収集している状況をご説明しております。中村議員からは、文化活動団体・指導者養成の取り組み状

況を問われ、文化団体向けの補助事業の執行状況をお答えしております。榑山議員からは、26年ぶりに18万人を超える入園者となった動物園の魅力づくりの取り組み状況を問われたものでございます。次に上野議員からは、図書館における図書選定の考え方を問われ、帯広市図書館資料収集方針に基づき、国内の出版物、その他の資料について、可能な限り幅広く収集に努めている現状をお答えしております。大石議員からは、帯広の森屋内スピードスケート場の利用状況について、利用者が伸びている現状を踏まえ、その内容について、佐々木とし子議員からもご指摘がございましたけれど、大石議員からは、開設前に設定した目標であるので、見直してはどうかのご指摘、ご意見をいただいております。小森議員からは、東京オリンピック、パラリンピックの開催を見据え、スポーツ合宿の受け入れ態勢を強化するために、帯広の森研修センターの拡充について、早期に方向を示すべきとのご意見をいただいております。最後に決算審査特別委員会の歳入の部分で、村田議員から、スポーツ振興くじの助成事業を活用し、昨年、帯広の森陸上競技場を大規模改修を実施してございますけれど、そういった事例を基に、市町村振興宝くじの助成を活用して、札幌の円山動物園が市町村振興宝くじの助成を活用して、毎年整備を行っているという事例を示しながら、帯広動物園など市民に広く還元する事業への活用を求めるとご意見をいただいております。生涯学習部に関する質疑内容は以上でございます。

田中委員長
伊藤 委員

これから質疑に入ります。

決算審査特別委員会で大石議員がデジタル化推進の内容についてお伺いしておりますが、私としては、社会教育施設や学校教育施設でデジタル化は今後重要になると思います。市の教育委員会として、中長期計画があればお聞きしたいと思います。

野原調整監

今回の質問の内容ですけれども、電子黒板とデイジー教科書に特化した部分のお話でございまして、その部分について答弁をさせていただきます。デイジー教科書については、現在、特別支援学級で試行的に行っているところですが、それが好きなお子さんもいれば、嫌いというお子さんもいて、今後も研究していく旨の答弁をさせていただきました。デジタル教材の計画的な導入については、まだ具体的なものを持っておりませんので、毎年の予算編成の中で考え方を進めていきたいと思っております。

門屋 委員

障がい教育のことで、差別解消法が28年4月1日から施行なのですが、全体の流れがこういう方向になっている認識が深まってきていることに大変うれしく思っています。多分、10月4日に局長通知が流れていると思いますが、改めて特別支援学級、障がい児に対する対応について、文部科学省から通知を出していると思っております。

ので、ぜひ進めていただきたいということと、10月15日に閣議決定されている障害者の権利条約の基準に向けて、様々な法律がここ数年で準備がされている方向です。教育の分野と労働分野は全体的に遅れていることが、基準を遅らせた理由だと今まで議論されてきています。帯広は進んでいますが、確認させていただきたいと思います。もう1つは、上野議員のはだしのゲンについては、どんな話だったのか聞かせてください。

橋場 部長

図書の選定について、具体的な書物の名前が出てまいりましたけれど、既にご承知のとおり、他都市で、はだしのゲンの中身について、教育委員会として、強制力は持っていませんが、学校において誰でも自由に見ることができない形をお願いしたという話について、これについて、学習指導要領の中で天皇陛下に対する尊敬する気持ちを教えなければならない中で、本の中では、主人公が天皇について望ましくない言い方の描写がある。それが学校にあるということは、学習指導要領に違反するのではないだろうかというようなご質問でした。私どもは、いわゆる書物として、これが学校にあることについて、今、日本という国は表現の自由を保障された国であるとして、学習指導要領に違反するものとは考えておりませんとお答えさせていただいております。以上です。

須貝 部長

もう1つの部分でございますけれども、お話いただいたとおり、インクルーシブ教育の動きをはじめ、障がい児教育に関して非常に大きな動きをしているところでございます。帯広市としましては、特別支援学級の設置・増設を含めまして、様々な取り組みを進めているところでございますが、それぞれの子どもに合った教育、求められた教育を大切にしながら、今後も対応していきたいと考えております。学級の中で特別支援学級、普通学級の交流が今後も非常に大切になってくると思います。それぞれの子どもたちに合った教育について、しっかりと対応していきたいと考えております。

門屋 委員

特別にする必要もなく、他の子どもたちと同じであればいいということです。特別に障がいの方に目を向けることだけでなく、目を向けられなかった部分を学校教育の世界でも広げていただければという話です。帯広市については、十分にそういう視点を私は感じていますので、全体の流れの中で進めていただければと思います。

市之川委員

図書の選定に関連して、はだしのゲンは、学習指導要領に違反していないという判断で、帯広市ではいつでも貸出しできる状況になっているのですか。

橋場 部長

特定の書物について、貸出しの状況等について調査はしておりません。基本的にそれぞれの学校において、市議会で話題になっていることは十分に承知させていただいていると思いますから、適切な形で対応させていただいていると考えております。少なくとも、

私ども、あるいは校長会等で制限を設けるといことはございません。

市之川委員

図書の選定基準について、どういふ方たちがどういふ形で行っているのかお聞きします。

田中委員長

学校図書館ですか、市立図書館ですか。

市之川委員

両方教えてください。

村松 室長

学校図書館における図書の選定につきましては、校長先生が最終的に教育的な意義があるか決断を下すわけですが、図書館司書教諭を中心にしながら、本を選定し、その選定された本を管理職も含めて確認し、最終的には校長の責任において購入しているということです。

本江 館長

図書館につきましては、資料収集方針というのを定めておりました、広く情報提供する観点から、広く収集していくという基本的な考え方をもっております。また、図書館の自由に関する宣言、公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準、図書館員の倫理綱領に則って収集するという考え方で、部門ごとに、一般図書、ヤングアダルト、児童書などの6部門に分けて、図書選定基準というのを定めております。先ほど地域資料のこともございましたが、地元作家のものを集めるとか具体的に定めまして、図書館内に館長以下、司書などの専門職の方を含めた資料選定委員会を設けております。購入の都度、実際には書面の選定が多いのですが、選定委員会で購入図書を決定しております。以上です。

市之川委員

分かりました。

田中委員長

他になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

その他(2)平成25年度教育懇談会の開催についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

須貝 部長

平成25年度教育懇談会についてご説明申し上げます。議案書は11ページでございます。教育懇談会は教育行政に関する情報提供や市民との意見交換を行うことにより、開かれた教育委員会づくりを進めるため、平成21年度より開催しております。今年度につきましては、11月7日木曜日から11月30日土曜日までの期間中、コミュニティセンターなど市内6カ所で開催する予定でございます。日程、会場につきましては、開催要領に記載のとおりで、時間はいずれも1時間30分を予定しております。次に次第ですが、教育委員会のしくみや現在の教育情勢を情報提供した後、教育委員の皆様から教育に関する思いなどをお話いただき、話題提供の一つとしながら、教育全般に関する意見交換を行うこととしてございます。次にテーマについては、今年度の教育懇談会では例年のような特定のテーマは設けず、学校教育、生涯学習全般につきまして、幅広く

市民の皆様と意見交換を行うものでございます。教育委員の皆様のお出席につきましては、各回、委員2名と教育長、合わせて3名のご出席をお願いしたいと考えてございます。また、参加された市民の方が話しやすい環境を考慮し、事務局側の出席は、次長職以上の職員と担当職員の出席を考えております。以上でございます。

田中委員長
伊藤 委員

これから質疑に入ります。

感想と意見を混ぜて話したいと思います。これは数年継続して非常に充実した形で進んできていると思います。不特定多数の方が集まるということで、私ども委員としても努力は致しますが、できるだけ会場設定等に和みや親しみの感じるような形をお願いしたいと思います。将来的に事務方としてどう考えているか分かりませんが、特定の団体との懇談の考えもあろうかと思えます。その辺の考え方についてお聞かせいただきたいと思えます。

須貝 部長

ただ今の件については、私どもも市民の皆様がお話ししやすい環境について大切だと考えてございます。そうした部分について、今回、机の配置、例えばプロジェクターの使い方、使うかどうかも含めて工夫をし、できるだけ参加しやすい体制を取っていきたいと考えております。それから、特定の団体につきましては、お話のとおり教育委員の皆様と例えばPTA等の活動団体との話し合いも必要だと思いますし、また、そういった方々からの懇談の要望もあるのではないかと考えております。今後、各団体と調整を取りながら対応させていただきたいと思えます。

田中委員長

他になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

その他（3）今後の事業予定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

野原調整監

学校教育部の事業予定をご説明いたします。企画総務課から1件、今、ご説明いたしました教育懇談会でございます。11月7日から30日までの6日間、市内コミセンなど6カ所で実施いたします。教育委員の皆様が地域に出向き、教育行政に関する情報提供や意見交換を行い、教育に関する市民の理解や関心を高めようというものでございます。以上です。

敦賀調整監

引き続き、生涯学習部の事業予定でございます。掻い摘んでご説明いたします。まず、スポーツ振興室では、2013フードバレーとかちマラソン大会が11月4日、9時にハーフマラソンがスタートし、その後、順次5km、2.5kmがスタートして、表彰式は11時半頃を予定しております。今年の特徴としては、2回目となりますので、早くから告知され、公認大会ということも知れわたり、昨年度の800人位を上回る約4千人の参加が予定されています。ゴール地点については、去年はゴールした後、藤丸前に移動して表彰式等、ホコテンと連動した形で行ってりましたが、今年はこの時期にホ

コテンを行わないということで、中央公園で菊まつりが最終日ですので、そちらと連動する形で、臨時のイベント会場や出店を行い、そちらに選手が集う形を演出しようと考えております。次に14ページ、文化課の関係で、既にご案内を差し上げておりますけれども、平成25年度帯広市文化賞文化奨励賞の贈呈式が11月3日でございますので、よろしくお願ひいたします。次に図書館からは、今月末から来月後半まで、第67回読書週間の関連事業がございます。16ページの百年記念館では、企画展として、地元の作家の熊代弘法展を行います。17ページ、動物園が11月4日で夏期開館の最終日となります。今のところ、夏期入園者が非常に好調で昨年度を若干上回る人数となっております。この後、12月以降に週末中心の冬期開園のため、準備、整備等に入る予定でございます。

田中委員長
各委員
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

その他(4)寄附受納についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

本江館長

10月24日に株式会社共成レンテム様より、現金100万円を受納しております。図書資料の充実に活用していただきたいという趣旨で、会社創設50周年を記念してのご寄附でございます。図書整備基金として、12月議会で補正予算を計上する予定でございます。

田中委員長
各委員
田中委員長

これから質疑に入ります。

ありません。

別になければ、質疑を終結し、本件を終了します。

事務局からその他説明事項はありますか。

事務局
田中委員長

ございません。

ここで会議の進め方についてお諮りいたします。

次の日程第5及び日程第6の案件については、帯広市教育委員会会議規則第16条第1項第6号により、非公開にいたしたいと存じます。

これにご異議ありませんか。

各委員
田中委員長

異議なし。

ご異議なしと認め、そのとおり取り扱ひいたします。

これより、会議を非公開といたします。

日程第5、議案第48号、平成25年度帯広市市民文芸賞及び市民文芸準賞の決定についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

大久保部長

議案第48号、平成25年度帯市市民文芸賞及び市民文芸準賞の決定についてご説明いたします。議案書は3ページでございます。本件は、平成25年度帯市市民文芸賞及び市民文芸準賞について、

帯広市市民文芸誌に関する規則第3条の規定に基づき、決定しようとするものでございます。今年度の市民文芸第53号に発刊にあたり、作品を募集したところ、1,254作品、101名の応募がございました。9月19日に市民文芸誌編集委員会を開催し、市民文芸賞及び市民文芸準賞の推薦作品の選考を行ったところ、今年度の該当作品はなしとなったものでございます。なお、同時に選考いたしました市民文芸第53号への掲載数につきましては、議案書4ページに記載してございます。このため、11月30日に予定しておりました贈呈式は行わず、先ほどの事業予定にも出ておりましたけれど、同日、十勝ガーデンズホテルで市民文芸発刊を祝う会のみを開催する予定でございます。説明は以上でございます。

田中委員長
門屋 委員
本江 館長

これから質疑に入ります。

なしというのは、今年が初めてですか。

市民文芸は53号が発刊になりますが、過去では昭和50年度、第15号が賞なしの年で2回目となります。

門屋 委員
市之川委員

めずらしいのですね、分かりました。

短歌、俳句、川柳で応募者数全員が入選というすばらしい結果になっていますけれど、優れた作品が多かったということでしょうか。

本江 館長

それぞれのジャンルに分かれて選者が複数名で選考しておりまして、皆様の評価が一定程度あり、このような結果になりました。ただ、応募作の中で、例えば10編の中で8編だけ掲載、入選になるという方もおります。

田中委員長

私からも1点だけ、選考の印象論で構わないのですが、例えば、小説12編で3編しか入選されなかったというのは、言葉がいかどうか分かりませんが、通常に比べてレベルが低かったと判断してよろしいでしょうか。

本江 館長

選考委員会での皆様の感想では、全体的にいつもより、今年は作品内容が入選まで至らない作品が多かったというご意見がありました。それから、複数の方の評価が分かる作品が多かったのも事実でございます。ある方はかなりいい点数の反面、ある方は下から何番目ぐらいの評価と、かなり意見が分かっていたというのは事実でございます。

田中委員長

市民文芸は第53号という歴史があり、いろんな意味で質的なレベルの高い雑誌だと思います。妥協してたくさん出すよりはいいことだと思います。次年度も昨年なしだったから、出すということは言わずに、しっかり選考していただければありがたいと思って聞いておりました。

田中委員長

他になれば、質疑を終結します。

お諮りいたします。

議案第48号、平成25年度帯広市市民文芸賞及び市民文芸準賞

の決定については、原案のとおり決定することにご異議ありませんか。

各 委 員
田中委員長

ありません。

ご異議なしと認め、議案第48号は決定されました。

日程第6、その他に入ります。

その他(5)平成25年度全国学力・学習状況調査についてを議題といたします。

直ちに説明を求めます。

橋場 部長

それではお時間をいただきまして、平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について、お手元の資料をもとに結果のポイント等について報告させていただきます。まず、平成24年度と同調査につきましても、全国調査は抽出で行われ、北海道は札幌市を除いて全校が希望利用で参加したところですが、平成25年度は全国一斉の悉皆調査となりましたので、今年度から全校同じ条件での参加となっております。国の報告によりますと、今年度につきましても、都道府県の状況について、平均正答率を見ますと、最低の平均正答率と全国平均との差が縮小傾向にあること、過去の調査で平均正答率が低かった都道府県については改善傾向が見られることが報告されております。また、北海道の調査結果によりますと、小学校のすべての教科、中学校、国語A、数学Aで全国平均正答率との差が縮まってきているなどの報告がなされております。本市の報告でございますけれども、資料の1枚目から調査の概要をまとめてお示ししております。今年4月24日水曜日に実施された本調査には、市内から小学校6年生1,376名、中学校3年生1,516名が参加しております。本市児童生徒の学力の調査結果についてでありますけれども、資料3枚目の児童生徒学力の状況の概観に概要を記載しております。今年度の調査における帯広市の児童生徒の学力の状況を大きく見ますと、小学校では、平均正答率の全国との比較は、各教科・科目とも、概ね-3から-5.5ポイントとなっております。北海道との比較では、各教科とも同程度ですが、数値の単純比較では、概ね-1から-2ポイント程度であり、全道平均をわずかに下回っている状況です。中学校では、平均正答率の全国との比較では、国語Aで全国平均を上回ったほか、その他の各教科・科目とも、概ね-1ポイント以内程度になっております。北海道との比較は、教科・科目とも同程度ですけれども、数値の単純比較では、すべて全道平均以上となっております。次に平均正答率のばらつきでございますけれども、全国を上回った小学校は市内で、国語Aでは9校、昨年より+6校、国語Bでは7校、-1校、算数Aでは7校、+3校、算数Bでは10校、+3校となっております。また、全国を上回った中学校は、国語Aで8校、+5校、国語Bで4校、-3校、数学Aでは

5校、+1校、数学Bは6校、+1校となっております。一方、全道平均を5ポイント以上下回った学校は、小学校、国語Aでは4校、昨年度より+2校、国語のBでは5校、-1校、算数Aは7校、+1校、算数Bは7校、+2校となります。中学校では、国語Aで1校、今年初めてです。数学Bでも1校、国語B、数学Aでは下回っている学校はございません。次に各教科の平均正答率については、次のページに一覧でお示しております、黄色で書かれているところは、概ね同等と見ております。単純に数値を比較したとき、白丸はその数値を上回っている場合、黒丸は下回っている場合と表示しております。ご覧いただいたとおり、特に小学校の算数において、どの領域においても全国に比べて低い傾向が見られ、本市の課題が浮き彫りになっていると考えております。4ページのグラフは、小学校における各教科・科目の正答数の分布を表しております。これから読み取れることとして、全国、全道と比較しますと、上位層と下位層の逆転現象が僅かに見られます。5ページのグラフは、中学校の状況を表しております。概ね全国と同じような状況になっておりますけれど、柱状グラフが帯広市の状況ですが、国語Aではむしろ帯広市の方が上位層を上回っている傾向が見られます。次に6ページ、児童生徒の質問紙による学習状況の概観であります。北海道教育委員会が分析している視点と同じものを本市として比較しますと、学習に関する状況として望ましい点は、小中学校ともに家で授業の復習をする児童生徒が増加してきていることが挙げられます。課題となる点は、小中学校ともに1日1時間以上勉強する児童生徒の割合が低いこと、3時間以上テレビやビデオ、DVDなどを見たり聞いたりする児童生徒が多い傾向が挙げられ、ほぼ毎回の調査で課題となっている点でございます。次に学校への質問紙から見えてくる学校の学力向上の取り組みにつきましても、数字に表れてはおりませんが、朝読書の取り組みや習熟度別指導や少人数指導などの取り組み、長期休業期間中の学習サポートの取り組み、家庭学習の手引きの取り組みなど、年々改善が図られてきていると考えております。今回の調査を見ますと、いずれの設問においても、小学校でやや低い傾向、中学校でやや高い傾向が見られるのが今年度の特徴と捉えております。こうした学力に関する全国的な調査は、一昨年 of 北海道の調査を含めて7回目となります。北海道では平成26年度の調査までに全国平均を上回るという目標を立てておまして、本市もそれに基づいて、教育委員会、各学校では、それぞれの年度の結果を踏まえて、改善に向けて取り組みを進めており、少しずつその成果は表れてきていると考えているところであります。しかし、毎回申し上げておりますが、テストを受ける子どもたちは毎年変わるわけであり、一人一人の児童生徒にとっては、毎年毎年が生涯の中で

かけがえのない1年であるという認識のもと、今後も意識を緩めることなく、こうした客観的なデータをもとに、学校における指導方法の工夫・改善、あるいはP T Aと連携した家庭学習の充実に努め、継続的に学力向上の取り組みを進めてまいりたいと考えております。なお今後、北海道教育委員会からは、より詳細な報告があると聞いております。例年どおりであれば、市町村の北海道の中での分布状況、また、北海道内での立ち位置、管内別の状況などが公表されるものと考えられます。本市としましては、今回の報告を第1次の報告とさせていただきますして、次の報告を基に、改めて第2次の形で帯広市の詳細な報告をさせていただければと考えております。以上です。

田中委員長
門屋 委員

これから質疑に入ります。

今のお話の中で、少しずつではあるけれども向上しているということは、どういう努力をした結果なのか、難しいと思いますけれど、見えているものがあるのかどうかお聞かせいただければと思います。

村松 室長

今、担当部長から説明があったように、全国平均との差が段々縮まってきていることについて、各学校でしっかりと1時間の授業改善に取り組むという姿勢で授業改善をしていただいております。その中で先ほどの質問紙にもありましたけれど、学校は学校として、1時間の授業でしっかり定着させる内容を意識しながら、授業改善を進めているところが成果として表れているのだろうと感じております。指導主事が指導訪問へ行き、直接先生方の授業を拝見する中で実態を確認しているところでもあります。また、家庭学習への働きかけということで、先ほどの家庭学習の手引き、宿題の量や出し方など、学校として組織的に行う学校が増加していることから、家庭と連携した学力向上の取り組みが少しずつ成果を上げてきているものと考えてございます。以上です。

門屋 委員
伊藤 委員

ありがとうございました。

門屋委員と関連しまして、今のご回答については、よく理解しているわけですが、この1次調査結果、あるいは2次が降りてきて、それを各学校にどのような形で周知されているのか、校長だけに伝えて、それを校長が自分の学校の状況を全職員に伝え、それを効果的な今後の指導に生かしているものと読み取れますけれど、具体的にはどういう形になっているのかということと、もう1つ、全国学力・学習状況調査に係わって、過熱状態になる懸念はないのかどうかお聞きします。

村松 室長

学校への周知の部分についてお答えいたします。まず、校長先生、教頭先生へ帯広市の全体の様子、各学校の部分についてお知らせします。校長からすべての職員へ報告し、同時にそれぞれの学校の教務主任、研修部長を中心にしながら、学校個々の実態を詳細に分析

しておりますので、それと併せて次年度への手当てとして、現在の小学校6年生、中学校3年生が卒業するまでの義務教育の保障という視点から授業改善をしていただいているところです。教育委員会として、今回のこの部分について、管理職はもとより、研修部長や教務主任の先生へも、この状況を直接私たちから伝えたいということで、3月に例年行っております教育課程編成の手引きの中でプレゼンを行いながら、帯広市の実態と課題、今後の方向性ということで、一般の先生、特に研修部長、教務主任の先生への働きかけをしてまいりたいと考えております。

橋場 部長

加熱の状況と言いますか、全国的には調査そのものについて、幅広い意見があることは承知しております。私たちはずっとぶれずにきたこと、学力の考え方、決して数値だけではないけれども、これが生きる力を支える確かな学力ということは、将来、生涯にわたって自立した社会生活を営む上で基礎になるものであるという考えのもと、今、良ければいいということではなく、教育基本計画にありますけれど、先を見据えたその礎を作ることがどれだけ大事かという議論をしながら、各学校にお伝えしてきたところでもあります。したがって、北海道教育委員会もただ正答平均率を上げればいいということではなくて、私たちもお話しているのは、今、目の前にいるそれぞれの子どもにあと3点アップするためには、何が必要かということを考えることは、突き詰めると特別支援教育になります。一人一人に応じた教育的ニーズにどう対応していくか、教育の根本がそこにあるはずで、また、少しでも子どもたちの点数を上げようと努力することは、そこには生徒指導や教育相談の機能も入ってくると思われま。ただ点数を上げるだけではなくて、教育の原点がそこにあるということで、もう一度立ち返ろうとお話しながら、その一方では、危機感もプレゼンテーションしながら、学校にはその両方を説明させていただいております。左右いろいろな意見は入ってきますが、スタンスはぶれずに、子どもたちのための生きる力の基本を少しでもつけてあげる努力をしていこうお話をさせていただいております。始まった当初は、いろいろございましたけれど、少しずつご理解いただいていると考えております。以上です。

伊藤 委員
田中委員長

よく分かりました。ありがとうございます。

私も1点だけ、3-1のところの見方についてですけど、黒丸は全道・全国よりも下回っている、白丸は上回っているということで、間違っていたら言ってください。単純に言うと小学校では、全国的に全道・全道より低く、特に算数はかなり低いということですよ。中学校に入ると盛り返して、白と黒が混在してくるという理解でよろしいですよ。先ほど部長、伊藤委員もおっしゃったように、学力はいろいろな考え方があるので、それがすべての価値では

ないというのを十重承知の上で申し上げれば、算数に課題があるということですのでよろしいですね。2つ聞きたいのですが、小学校の時点で、これだけ低いことが明確に出ていけば、授業方法等の改善の必要があるだろうと考えと思いますが、その対策についてはどのようにしたらいいのかということと、もしかしたら、児童が算数の授業中に全く分かっていない子どもがいる可能性があるということですね。ある意味、非常に不幸せな状況だと思いますので、改善できれば子どもにとってもいいにきまっていますよね。もう1つ、調査対象が別の子どもたちなので、一概には言えませんが、中学校3年の時点で、上がってくる理由は受験ということもあるのでしょうけれども、考えられることは何か、小学校と中学校でどれだけ違っているのか率直に思うところです。お考えがあればお聞かせいただければと思います。

村松 室長

今、ご指摘いただきましたとおり、帯広市の今までの傾向もそのようなのですけれど、概ね小学校で低く、中学校で盛り返すという状況にあるわけですね。小学校の授業改善で言いますと、国語、算数ともに個別指導にどう対応していくのかということが1つの問題となっています。お話にもありました全く分からない子どもと言いますか、2極化しているということをおもも分析しております。下位層の子どもたちをどうやってしっかり学習を定着させ、次の学年へ送るかということ、決して6年生だけの問題ではなくて、小学校1年生から6年生まで積み上げの問題であると小学校の先生方も十分認識していただいております。北海道教育委員会が行っている加配教員を使った少人数指導、習熟度別指導の導入が1つのきっかけとなって、それぞれの子どもの応じた対応をしていこうという授業改善が今進んでいます。年度の個体差は若干あるかもしれませんが、積み上げていく過程でしっかりと正規分布の形になるのが理想ではないだろうかと考えて、今、授業改善をしていただいております。

橋場 部長

今、室長から話がありましたように、それぞれの学校で授業改善に取り組んでおります。我々もいろいろ分析してまいりましたけれど、算数、数学は積み上げが最も大事な教科です。振り返りますと、実は中学生でも掛け算の九九や割り算が分からない傾向が見られたということで、今やっている掛け算の九九が将来どうなるのかということを見据えた指導を目の前の子どものためにしていこうこと、元々大事なことですけれども、改めて大事にしていこうと盛んに訴えているところです。帯広市内ではここ数年、コミュニケーションということで、国語の授業研究が随分されました。子どもたちの国語力が随分ついてきたと思っておりますが、一方で算数、数学は積み上げが大事ですから、1日1日の家庭学習や宿題を含めて、授業以外の時間にいかに定着させるかということも非常に大事だと考えておりま

すので、野球の素振りなどを例に出しながら、いかに家で努力することが大事だということを家庭にもお伝えしながら、一方、学校では授業改善もしっかりやっていこうという取り組みを進めております。また、中学校3年生の成果ですが、いろいろあると思います。もちろん学習塾等の力もありますし、目の前には受験も大きいと思います。私たちが最近注目しているのは、文化祭の合唱コンクールなどを見ますと、子どもも先生も一体となって1つの目標に向かっていく文化と言いますか、そういった日々受験に向かってがんばるぞという気持ちがありますから、こういう学力調査の結果を受けて、次がんばろうという気持ちになってくれているのではないかと、そうになってくれたらうれしいということも含めて分析をして、中学校のがんばりも褒めながら、それを目指して小学校の子どもたちもがんばるという構図ができればいいなと考えております。小学校のうちから100%力を出し切らずに、中学校で伸びていくということも考えられますし、9年間を見据えた形で取り組みを進めていければと思っています。以上です。

田中委員長

他になれば、質疑を終結し、本件を終了します。

事務局からの説明は以上であります。この際、各委員から他にご意見、ご質問等があればお受けいたします。

伊藤 委員

よろしいですか。時期外れで、また、唐突な質問なのですが、私はよく社会教育施設へ行きます。いつも感ずるのは、防災に関する訓練は職員になされているのか、実際の訓練はどのような形でされているのか現状をお聞かせいただければと思います。

敦賀調整監

各施設では帯広市消防条例に基づいて、防火管理者、施設権限者、それぞれの火元責任者を決めて、防火訓練体制を整えております。最低年1回、条例で求めているのは2回ですが、主に休館日に配置は通常の状態に再現し、市民の皆さんの誘導も含めて訓練し、消火器の取り扱いなど消防の協力も得ながら訓練を行っているところではあります。

田中委員長

この件に関して伊藤委員は何回かご質問されていますが、何かございましたか。

伊藤 委員

そうではないのですが、もし、地震が来たら自分はどうするだろうかと思いながら訪れているものですから、今の話しで安心しました。

田中委員長

他になれば、本日予定されておりました案件はすべて終了いたしました。

以上で平成25年第18回帯広市教育委員会会議を閉会いたします。